

令和8年度6月10日、アクア・トトぎふにて、ヤマトイワナの解剖実習を行いました。解剖前に講師の方からヤマトイワナの生態系や身体の仕組みに関する話を分かりやすく教えていただきました。ただの模様のようにも見える側線という器官が、ヒトの耳のように振動を感じ水圧や水流を感じ取る、魚にとって重要なものであるという説明が特に印象に残っています。今回は、ピンセットと解剖はさみを使って、えら、臓器、眼球、脳の順で一つ一つ解剖して行き、観察スケッチを行いました。実際に素手で触ることもでき、ヒトとは違う感触を体験できました。えらを支える鰓弓という組織が想像とは違い、はさみで簡単に切れるほど柔らかく、驚きました。眼球には、ヒトにも存在する水晶体がありましたが、イワナの水晶体は球体で僅か0.3mm程と非常に小さく、同じ器官でも水と陸の生物でこれ程違うのかと関心しました。また、解剖手順や器官の解説は写真や図を交えて非常に分かりやすくなっており、二時間という長い時間が一瞬に思える程興味深い実習でした。 理数3年・生徒の感想1

「また一つ新たな知識と技術を」

アクア・トトぎふは世界最大級の淡水魚水族館で、普段見ることがない魚をたくさん見ることができた。また、淡水魚以外にも爬虫類や両生類が飼育されており、爬虫類が好きな私は写真を撮ったり観察したりして水族館を満喫することができた。魚達が住む環境を再現した水槽は草が多く、生き物を見つけるのが大変だったが、擬態している生き物を見つけた時に自然ではこうして天敵から逃れているのかも、と彼らの生き方を想像することが楽しかった。

自由散策の後は魚の解剖実験を行った。授業で行った解剖実験は水煮されたものを使用したので解剖しやすかったが、今回はまだ新鮮な魚を使ったため解剖しにくく難しかった。解剖に抵抗がある人が多いのではと思ったが、ほとんどの生徒が夢中で解剖、スケッチを行っていた。解剖もスケッチも自分より上手な人がたくさんいて、尊敬の気持ちを抱くとともに今後も生物を学んでいく者として負けていけない、生物に関する知識や技術をもっと身につけられるように頑張ろうと思う良いきっかけになった。今後の自分のためにこの経験を活かしていきたい。

理数3年・生徒の感想2

